

産大生と地域のかけ橋  
**ローカレッジ**  
*Local × College*

**【特集】**「柏崎野菜応援プロジェクト」  
**マコモタケ×柏崎×新潟産業大学**

「かしわざき地場産ランチフェア」  
 ささ川・インド料理ガネーシャとコラボ！  
 マコモタケのオリジナルキャラ登場！



「風輪通貨」で  
 柏崎市内を食べ歩こう。

洋食のフタバ／ポンと・ポンて／盛来軒

**地域連携活動ニューストピックス 2018 春**

「良寛と貞心尼の歌物語ツアー」「トオコン2017」「まちから」他

この冊子は新潟産業大学経済学部学生が制作しました

**まちかど研究室**

「NIKS 地域活性化大賞」期待賞受賞！！

まち研カフェ・スタンプラリー

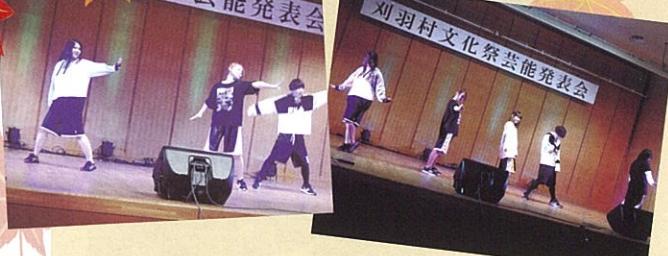


書道部



書道ブースでは、ポストカードのプレゼントや大文字の実演、布絵等の体験コーナーを開きました。小さい子どもから高齢の方まで足を運んで頂き、更に留学生部員との交流が盛り上ぎました。

ダンス部



ダンス部は今回、初めて刈羽村文化祭に参加しました。ステージは大きくライティングなどもして頂いてとても豪華でした。部員の楽しんで踊る姿を客席に届けることが出来たと思います。

軽音部



軽音部は産大と工科大の各バンドに加え、二大学の混合バンドによる演奏を行いました。二大学が協力してバンドを組み披露するのはここ数年でも初めてのことであり、会場内を若者の熱気で包みこみました。

文・デザイン：本田涉・渡邊有紀

2017  
 11/11(土)  
 12(日)

平成29年度の秋～冬も、新潟産業大学の「学生」たちと柏崎を中心とした「地域」との連携活動が、多種多様な形で精力的に展開されてきました。そこでは多くの出会い、様々な経験がありました。特筆すべき出来事は、やはり巻頭記事で紹介した「まちかど研究室」が「NIKS 地域活性化大賞」で「期待賞」を受賞したことでした。この間、大学生がビジネスプラン等を提案するコンテストの機会は益々増えていますが、今回は学生に限定しない、社会人の団体や企業等が手掛ける事業を対象とする賞であったため、2次審査でも学生での参加は私たちだけでした。事業規模やプレゼンの仕方でも学生と社会人の差を知らされましたが、同時に、同じ舞台に立たせていたいことは大きな自信に繋がりました。現在、本学は「地域実践教育の大学」を目指して大学改革を進めておりますが、新年度も地域に必要とされる若者を育む「知（地）の拠点」としての使命を果たすべく、邁進する所存です。

編集スタッフ：文化経済学科4年 権田ゼミナール 渡辺雄大  
 文化経済学科3年 権田ゼミナール  
 岡本桜 神田夏海 小林樹 駒村彩佳 進藤真彩 濱沼翔人  
 高野和也 錦織奨 油井和貴 渡邊有紀 フルバートエキーマー  
 経済経営学科3年 本田涉  
 文化経済学科2年 金子佐和子 佐藤来美  
 経済経営学科1年 齋藤千紘  
 文化経済学科1年 湯本夏音

(学年は2018年3月現在のものです)



## 11月

▲子どもたちに自由にデコレーションしてもらいました

11月カフェは「読書の秋」をテーマにカフェの運営をしました。勉強、読書ができる道具を児童・生徒に持ってきてもらい、「やるぞカード」で目標を明確化するよう促しました。今回は勉強か読書をしようという企画で、最初は不安でしたが、小学生もみんな集中して勉強してくれました。また、大学生のオススメの本を紹介するコーナーも充実し、お客様はもちろん、大学生同士でも読み合い、とても充実していました。週末は「食欲の秋」と「芸術の秋」をテーマにホットケーキを振る舞つたり、割り箸工作を行ったりしました。翔洋の生徒にも手伝ってもらい楽しいイベントになりました。4日間の来客数はのべ43名でした。

## まち研力/工&季節のイベント

◀クッキーのプレゼントも♪



## 12月



▲クイズ大会で大盛り上がり!!



## 1月

▲最終日のかるた大会

1月はクリスマスをテーマにカフェを營業しました。天気も悪く、寒さからか、若干客足も少なかつたですが、週末のバーティーには多くの小学生が集まってくれました。バーティーではクイズ大会、持ち寄りのプレゼント交換、手づくりクリーのふるまい等、時間いっぱいに小学生も大学生も盛り上りました。4日間の来客数はのべ49名でした。

今年度は6月～2月まで9回のカフェを企画し、36日間でのべ約400人が来店してくださいました。毎月カフェを楽しみにしてくれる小学生も多く、なかには「大きくなったら自分もまち研を運営したい」という子も。カフェを通じて、子どもたちが柏崎に愛着をもち、将来は柏崎を盛り上げてくれる存在になつてくれたら、とても嬉しいです。

1月のカフェのテーマはお正月でした。「お正月遊びをしよう!」ということで、かるたや百人一首などをして、大学生も小学生たちと交じって遊びました。週末にはかるた大会とおしるこの振る舞いをしました。かるた大会では2回戦に分けて行いました。どちらも大盛り上がりでした。とても充実したイベントになりました。4日間の来客数はのべ60名でした。



2月 ▲思いおもいの鬼のお面を手作りしました。



1月のカーニバルはお正月でした。大学生たちと交じって遊びました。週末にはかるた大会とおしるこの振る舞いをしました。かるた大会では2回戦に分けて行いました。どちらも大盛り上がりでした。とても充実したイベントになりました。4日間の来客数はのべ60名でした。

2月のカフェは、季節のイベントとしてバレンタイン、節分を取り入れました。バレンタイン要素として13日・14日限定で家族、友人にメッセージカードを書いてもらいました。週末には節分イベントを行いました。大学生が鬼のお面をかぶり、小学生が鬼に向かって豆をまきました。帰りには小学生に、年齢分の落花生をプレゼントしました。4日間の来客数はのべ37名でした。

今年度は6月～2月まで9回のカフェを企画し、36日間でのべ約400人が来店してくださいました。毎月カフェを楽しみにしてくれる小学生も多く、なかには「大きくなったら自分もまち研を運営したい」という子も。カフェを通じて、子どもたちが柏崎に愛着をもち、将来は柏崎を盛り上げてくれる存在になつてくれたら、とても嬉しいです。

魅力を感じたりもしました。審査の結果は「期待賞」(賞金15万円)。結果はどうあれ自分たちの行ってきた活動を見直す良い契機になり、今後のプレゼンや社会に出たときに活かせる充実した審査会になりました。審査会の後は出場した団体の方々と懇親会を行い、最後は審査員の蓮池先生も一緒に記念撮影をしました。今回の審査会でこのような賞を頂けたのは、権田先生、同じゼミの仲間たち、地域の方々、まち研に来てくれた小学生など、ゼミ活動に関わるすべての方々のおかげだとうでの、誇りを持ってこれから的人生の糧としていきたいです。



文・デザイン:小林樹・駒村彩佳・渡辺雄大(地域活性化大賞)

# 新潟産業大学 × 新潟工科大学 まちかど研究室

「NIKS 地域活性化大賞」  
期待賞 受賞!!



権田ゼミナール4年生は、まちかど研究室の活動を学外でも広く知つてもらいたいという思いから、新潟県異業種交流センター「第15回N.I.K.S地域活性化大賞」に応募しました。「NIKS地域活性化大賞」とは、「新潟県の明るい、より豊かな社会の実現を目指し、経済、教育、文化、環境の事業を推進している団体」を対象とした審査会です。賞金総額は205万円、最上位の大賞に選ばれると50万円の賞金がもらえるという、なんとも夢のあるものでした。一次審査はパワーポイントで作成したスライドのみによる書類審査、それを通過すると、今度は実際に審査員の前で発表を行う二次審査があります。

ライドのみによる書類審査、それを通過すると、今度は実際に審査員の前で発表を行う二次審査があります。プレゼンは滞りなく進み、私たちが行ってきた活動を思う存分紹介することができます。「もっと内容を絞ればよかつた」「自分たちの地域活性化に対する思いをもっと入れ込むべきだった」など、反省点はたくさんありました。反省点はたくさんありました。しかし、審査員からの質問に対しては自分の言葉で答えることができ、そこで原稿には無かつた学生の思いを伝えることができたのでよかったです。また、同じく柏崎の団体が出場していたり、学生が関わっている団体の取り組みが聞けたりして、親近感や

魅力を感じたりもしました。審査の結果は「期待賞」(賞金15万円)。結果はどうあれ自分たちの行ってきた活動を見直す良い契機になり、今後のプレゼンや社会に出たときに活かせる充実した審査会になりました。審査会の後は出場した団体の方々と懇親会を行い、最後は審査員の蓮池先生も一緒に記念撮影をしました。今回の審査会でこのような賞を頂けたのは、権田先生、同じゼミの仲間たち、地域の方々、まち研に来てくれた小学生など、ゼミ活動に関わるすべての方々のおかげだとうでの、誇りを持ってこれから的人生の糧としていきたいです。

私たちには、まち研の概要からカフェ&イベントによる取り組み、その他の地域連携活動からまち研の課題など幅広い内容で応募したところ、見事一次審査を通過することができました。

そして2月24日(土)上越市の百年料亭「宇喜世」にて、一次審査会が開催されました。当日は各団体とともに人数制限があり、権田先生と4年生二人による発表となりました。あたりを見渡せば会社の偉い方々、NPOの代表の方々ばかりで、会場は緊迫した雰囲気に包れます。このように一般の企業に混ざってプレゼンを行うことは初めてだったのですが、非常に緊張し不安だったことを覚えていています。

プレゼンは滞りなく進み、私たちが行ってきた活動を思う存分紹介することができます。「もっと内容を絞ればよかつた」「自分たちの地域活性化に対する思いをもっと入れ込むべきだった」など、反省点はたくさんありました。反省点はたくさんありました。しかし、審査員からの質問に対しては自分の言葉で答えることができ、そこで原稿には無かつた学生の思いを伝えることができたのでよかったです。また、同じく柏崎の団体が出場していたり、学生が関わっている団体の取り組みが聞けたりして、親近感や

魅力を感じたりもしました。審査の結果は「期待賞」(賞金15万円)。結果はどうあれ自分たちの行ってきた活動を見直す良い契機になりました。今後はプレゼンや社会に出たときに活かせる充実した審査会になりました。審査会の後は出場した団体の方々と懇親会を行い、最後は審査員の蓮池先生と一緒に記念撮影をしました。今回の審査会でこのような賞を頂けたのは、権田先生、同じゼミの仲間たち、地域の方々、まち研に来てくれた小学生など、ゼミ活動に関わるすべての方々のおかげだとうでの、誇りを持ってこれから的人生の糧としていきたいです。

## まち研スタッフ@商店街

のスタンプを集めました。  
ゴールである市民プラザ海のホール  
では、帰ってきた小学生に温かい豚汁  
やお菓子を振るまい、上位チームには  
柏崎市の銘菓や風輪通貨を贈呈しまし  
た。上位チームには、2度目3度目の  
参加者もみられ、地域の恒例行事とし  
て徐々に定着してきています。今回は  
70名の小学生が参加し、参加数は次第  
に増えてきているので、これからもぜひ  
ひ続けていきたいと考えています。

11月18日、二大学共同プロジェクト  
である「まち研スタンプラリー@商店  
街」が開催されました。今年で3年目  
を迎えるこのイベントは毎年大変好評  
で、この時期に予定を空けている子ど  
もたちも多くいるほどです。二大学の  
学友会メンバー約50名のスタッフが春  
から準備を進めてきました。

小学生は3人一組で大学生のスタッフ  
と一緒に柏崎の駅前・駅中・ニコニ  
コ商店街、西本町・東本町にある約40  
か所の商店や寺院などのチェックポイ  
ントを回り、商店や柏崎にちなんだク  
イズに答えながらスタンプを集めます。  
当日は天候が悪かったのですが、小  
学生は元気なまちを歩きまわり、店舗



▲たくさん参加してくれました！



▼悪天候の中元気に  
歩く子どもたち



▲お店の方に  
クイズを出してもらいます

## 今年度の成果と 今後の展望

今年度で6年目の活動であった  
まち研ですが、現行の運営体制に  
なって3年目であり、スタンプラ  
リーやカフェ等、前年度からの継  
続実施となるプロジェクトが目立  
ちました。

しかし、これは決して事業全体  
のマンネリ化ではなく、事業を継  
続実施することで一定の成果が表  
れています。まち研カフェでは年  
間約400名が来店し、そして  
まち研全体の年間の稼働日数は  
230日であり、多くの学生や地  
域の方がまち研の店舗を訪れ、柏  
崎を元気にするため様々な事業を  
展開することが出来ました。

今後の方針として、現時点で  
以下のような改善策を検討してい  
ます。

第一に、「まちづくりワーク  
ショップ」の実施です。これまで  
学生の興味関心を軸として事業を  
進めてきましたが、学生と商店主  
等地域の方との話し合いの場を通  
じて、新規プロジェクトを提案、  
実施していきたいです。

第二に、「二大学共同プロジェ  
クトの増加」です。二大学の学生  
が協力して取り組んでいくイベン  
トを現行の秋のみ実施から別の季  
節にも新設することや、これまで  
各大学ごとに実施してきた取り組  
みの中から、一部共同での実施へ  
移行したいと考えています。  
これらを含めて、第三に、年間  
スケジュールを見直して、より効  
果的な事業実施を目指したいです。  
7年目も学生と地域の方が共に  
知恵を出し合い、語り合って、共  
に中心市街地や柏崎を元気にする  
ための活動に楽しく、精力的に取  
り組んでいきたいです。

## 【特集】 Local College マコモタケ × 柏崎 × 新潟産業大学



カシワタケさん

マコモザキくん

「柏崎野菜応援プロジェクト」では柏崎野菜のひとつである「マコモタケ」  
のPR活動を新潟産業大学の学生が2年間取組み、柏崎地域の方々と協力し  
ながら様々な活動を行いました。これを見て多くの人が柏崎野菜・マコモタ  
ケについて知り、興味を持ち、食べてくださると嬉しいです。





マコモタケはイネ科の野菜です。

マコモダケと呼ばることもあります。日本の食卓に上ることはまだ少ないですが、中国や台湾では身近な物、天ぷら、漬物にするのが一般的な食べ方ですが、独特の食感を活かした新しいレシピやアレンジ方法が考案されています。

収穫時期は9月から10月頃で、タケノコに似た食感と、クセがなくほのかに甘い味わいが特徴です。炒め物、天ぷら、漬物にするのが一般的な食べ方ですが、独特の食感を活かした新しいレシピやアレンジ方法が考案されています。

# マコモタケってなんだろう？

「柏崎野菜」は、地場野菜の品質保持と生産拡大を目指して、平成21年度に選定・認定されました。古くから栽培されている「柏崎伝統野菜」と、今後の生産拡大に力を入れている「柏崎地場特産品」の2つに区分されます。

マコモタケは「柏崎地場特産品」として認定を受けており、柏崎で一般的な野菜として「地産地消」されるための取り組みが行われています。

**不思議な生育過程**  
マコモタケ独特の食感は、黒穂菌の菌糸により生まれます。黒穂菌はキノコの菌と同じ、食用の菌です。若いマコモについた黒穂菌は菌糸を伸ばし、その影響でマコモの茎の根元部分が肥大します。肥大した部分をマコモタケとして食べます。

黒穂菌がつかなければ、マコモには稻のように米が実ります。この米はワイルドライスと呼ばれます。

矢田営農さんは農業を通じて、地域活性化や地域の所得向上を目指しています。様々な地場野菜を栽培しているほか、引退した農家さんが手放した耕作地を引き受けた活動もしています。また地元の小学生の農業体験への協力などにも力を入れています。こうした地域活性化や地域の所得向上への取り組みが高く評価され、北陸農政局より「ディスカバー農山漁村の宝」に選ばれました。

近年、マコモタケは独特的な植生や育てられたマコモタケは瑞々しく絶品です。矢田営農さんは農業を通じて、地域活性化や地域の所得向上を目指しています。様々な地場野菜を栽培しているほか、引退した農家さんが手放した耕作地を引き受けた活動もしています。また地元の小学生の農業体験への協力などにも力を入れています。こうした地域活性化や地域の所得向上への取り組みが高く評価され、北陸農政局より「ディスカバーナ農山漁村の宝」に選ばれました。

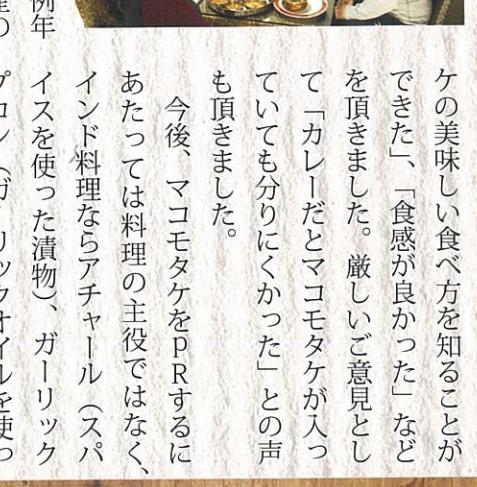
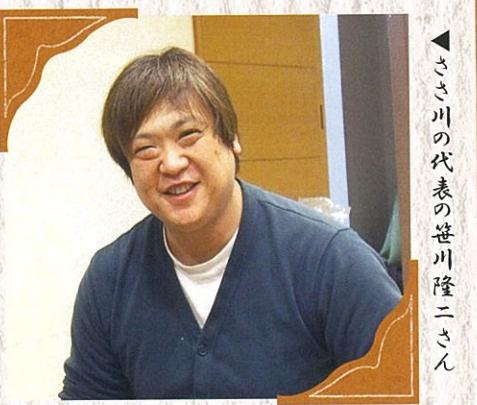
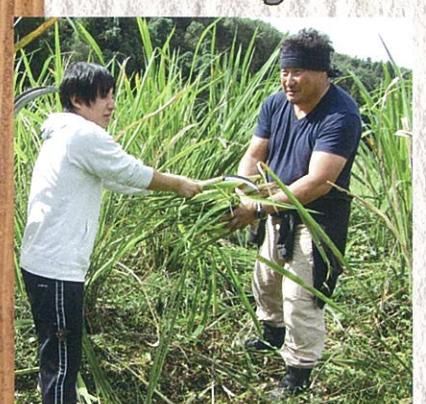
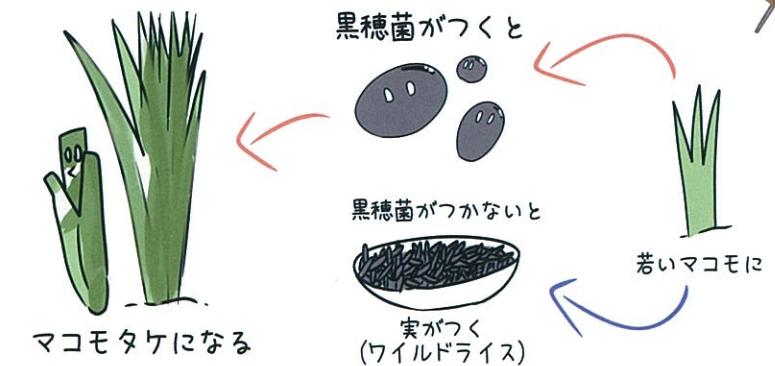


写真は2017年10月18日の収穫体験の様子。  
ガネーシャの福井さんも駆けつけてくださいました。

## 「柏崎野菜」マコモタケ

「柏崎野菜」は、地場野菜の品質保持と生産拡大を目指して、平成21年度に選定・認定されました。古くから栽培されている「柏崎伝統野菜」と、今後の生産拡大に力を入れている「柏崎地場特産品」の2つに区分されます。

マコモタケは「柏崎地場特産品」として認定を受けており、柏崎で一般的な野菜として「地産地消」されるための取り組みが行われています。



学生から提案されたティスト・要望を全部入れ込んだというランチフェアのメニュー「マコモタケ」は、毎日完売していました（1日10食限定）。ランチがいつもより安いおかげでコスパが良かつた「食感が良い」「このチフェアのアンケートでは、「値段がいつもより安いおかげでコスパが良かつた」「食感が良い」「このケの特徴を理解し、柏崎で採れたから他の地域のマコモタケよりも優れてる点、質が良いという点を自分たちが分からなければ売り出しきれないのではないか」と柏崎におけるマコモタケの課題を指摘されました。また、だからこそ生産者との連携も重要視されてくる、頂きました。

笹川さんは、「柏崎のマコモタケの特徴を理解し、柏崎で採れたから他の地域のマコモタケよりも優れてる点、質が良いという点を自分たちが分からなければ売り出しきれないのではないか」と柏崎におけるマコモタケの課題を指摘されましたが、また、だからこそ生産者との連携も重要視されてくる、頂きました。



▲ガネーシャの代表の福井常生さん

今後の活動のひとつに、マコモタケを家庭料理に浸透させるための一番のアピールとして、人通りが多いスーパーにマコモタケを並べるためにあたって、店頭調理して、見せてアピールするのを実際に行なうと、笹川さんからご意見を頂きました。

今後、マコモタケを並べるためにあたって、店頭調理して、見せてアピールするのを実際に行なうと、笹川さんからご意見を頂きました。

# 地域連携活動ニューストピック 2018 春

今年度は「ランチフェア」でのメニュー考案やマコモタケのゆるキャラ制作などを行いました。今年度の活動を振り返り、今後学生が挑戦したいアイディアが出されたので、その一部を紹介します。



## 良寛と貞心尼の歌物語ツアー

## 地域と連携した観光事業活動に参加

### チラシ・ポスターも 学生がデザイン

学の学生が描いたイラストが、モニターツアーの募集用のチラシとポスターに採用されました。また、良寛と貞心尼をテーマとする観光事業のために、金ゼミナールがガイドマップを作成しました。参加者はガイドマップなどを手に、良寛と貞心尼のゆかりの地を巡り、訪れた施設等では、柏崎良寛・貞心尼会の方などから解説をしていただきました。

### 谷根川のサケ 遡上復活へ

このサケの豊漁を祝つて開催されるのが、「さけ豊漁まつり」です。まつりでは、サケのつかみ捕り（要予約）を体験でき、とても人気があります。また、サケの人口授精の体験や加工品の販売も行うそうです。会場となる「さけのふるさと公園」ではサケの一生を学習することができます。昨年は11月26日・27日にまつりが開催されました。これに合わせて、金教授が調査研究をしている谷根川のサケをテーマとする観光用のチラシを学生が制作しました。

谷根川を遡上するサケ



谷根川を遡上するサケ



### 調理動画の配信、SNSの活用

若者に普及させるには動画やSNSでの活動がよいと考えます。そこで、YouTubeでマコモタケを調理方法の宣伝をするというアイディアが浮かびました。

普段、マコモタケをあまり食べたことがないという方が多いので、調理法が分からず手に取りにくいことが考えられます。そこで、市販のマコモタケの包装にQRコードを記載することにより、手軽に見れるというインターネットの強みを活かせるので、出来ればいいなと思います。

SNSでマコモタケのゆるキャラのアカウントを作り、情報発信することも考えています。

### 植付から収穫まで一連の農作業を体験

今年度は、学生たちは収穫のお手伝いだけに参加しましたが、矢田農園さんから、今度は植付から収穫という、いうなればマコモタケの一生に携わってみてはどうか、とご提案いただきました。

より近くでマコモタケに関わることで、分からぬこともベテランの農家さんにすぐ聞くことができ、農業の良さも知る機会になると思うので、是非実現させたいです。

### マコモタケを使用した「駅弁」

マコモタケを使用した「駅弁」を販売する案がありました。駅弁のメリットとしては、柏崎で作られた数々の野菜を大衆に発信出来ることです。マコモタケは10月頃が旬なので、秋の行楽シーズンを意識した「限定品」として販売するのも一つの手段です。

駅弁は、時期によってはスーパーやコンビニで販売することもあるので、より多くの方に知ってもらえることを期待できます。

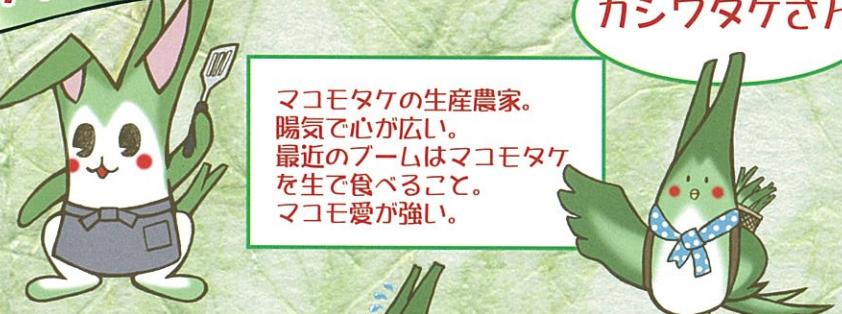
**マコモタケの保存方法**  
マコモタケは新鮮なものが美味しいので、なるべく早くお召し上がりください。冷蔵で保存する場合は、水を張り、根元の切り口を浸けておくと、1週間程度鮮度が保てます。浸けておくと、

### マコモタケのオリジナルキャラ紹介

マコモザキくん



マコモタケ農家の料理担当。  
元気は人一倍だがドジっ子。  
最近は、カレーとオムライスの料理を作っている。  
マコモ愛が強い。



マコモタケの生産農家。  
陽気で心が広い。  
最近のブームはマコモタケを生で食べること。  
マコモ愛が強い。

「マコモタケ」という比較的なじみの薄い野菜をどうPRすればいいかと考えた時、オリジナルのキャラクターを活用しようとという提案により、2体のキャラが誕生しました。これを作つて終わりではなく、商品のパッケージ袋に印刷する。3Dプリンターで出力しフィギュアを作成し、イベントなどでPR、若者に関心を持つてもらうため、LINEスタンプを作成し配付する案も出ています。

柏崎のマコモタケは出荷時期、生産量も限られており、安定供給が難しいのが現状ですが、それをマイナスと捉えず、あえてこの時期だけの「限定品」として附加価値をつけ、まずは柏崎での知産地消を目指し、いずれは新潟県外へと、広く発信していきたいです。

## 今後の柏崎野菜応援プロジェクトについて

# トオコン2017

## 学生アイデア部門賞を受賞！

十日町の良さを生かした新しいビジネスのアイデアを競うコンテスト

「トオコン2017」で、産大のチームが「学生アイデア部門賞」を受賞しました。

産大チームが提案したのは、十日町の観光資源である雪や雪祭りを活用した「ホテルかまくら」

泊まるというシンプルなアイデアを実施し「話題が集まる、人が集まる、思い出が集まる」という3つの「あつまる」を実現させようというプランを提案しました。



## 市民活動センター「まちから」で東日本大震災を振り返る

3月5日、文化経済学科「まちづくり・地方行政分野」の専門科目「まちづくり基礎」の履修生と有志学生で、かしわざき市民活動センター「まちから」を訪問し、震災からの地域復興について学びました。



地下のシアターでは、中越沖地震の際の柏崎を振り返る映像を視聴。



渡邊さんが一時帰宅する際に着たという防護服を学生も試着。

「まちから」には中越沖地震を振り返る資料が展示され、防災教育についての各種ワークショップなどが実施されています。今回は3月11日が近かつたこともあり、東日本大震災で被災され、福島県双葉町から柏崎に避難されてきた渡邊浩二さんの体験談を聞く、「語り部プログラム」を受講しました。地震発生から津波、そして原発事故という壮絶な体験の中で、どのような「とつさの判断」を重ねて来たかを、私たちにも問い合わせながら振り返ります。また、一次帰宅が許された際に着たという防護服と同じものを学生も試着させていただきました。自宅に帰るのに、これだけの装備をしなくてはいけないという現実の厳しさを、間接的にですが感じることができました。

中越沖地震から10年以上が経過し、震災時のことを探していける私たちは、もしものときに自分達ができること、日頃からできることなどを考えされました。

## 産大生×柏崎のリアルを覗いてみてね！

### Twitterでまち研・権田ゼミの大学×地域連携活動を紹介

文化経済学科3、4年の権田ゼミ（まちづくり・地方行政分野）メンバーが取り組んでいる大学×地域連携活動について紹介しています。日々「まちづくり」に奔走中！ぜひ覗いてみてね！

「まちかど研究室（新潟産業大学権田ゼミ）」  
(@ machikennsu)

### 産大 web サイト 「The SANDAI WORLD」

「このまちぜんぶ、わたしのキャンパス。」をテーマとして、柏崎市の自然や街の風景の中で、学生の皆さんのが見せる活き活きとした表情を捉えて紹介しています。きっとこのまちに住みたくなる！？

<https://www.nsu.ac.jp/sandaiworld/>



取材・文・デザイン：金子佐和子・佐藤来美

## 男女共同参画社会理解を深めました

昨年11月18日、産業文化会館で開催された「第32回柏崎フォーラム」

で「あなたにとっての男女共同参画とは？」「男女共同参画を広げるためできることは？」をテーマにグループトークを行いました。昨年3月に発行された男女共同参画啓発用のリーフレットの作成に権田ゼミの学生が携わっており、さらに理解を深めるためにかしわざき男女共同参画推進市民会議主催のワークショップに参加しました。柏崎市人権啓発・男女共同参画室長の木村さんに参加



会議に参加した皆さんで集合写真を撮りました。



していただき、柏崎市の男女共同参画の現状と課題を説明していただきました。これを受け、グループなどの意見を出し合いました。最後に一人一人が明日から取り組む行動宣言をグループ内で共有して、参加者全員が意識を持って行動していくことを確認しました。

今回参加したことでの今まで以上に男女共同参画を身近なものとして捉えることができるようになりました。2時間という短い時間でしたが、有意義に過ごすことができたと思いました。より理解を深められるよう、地域の方との意見交換の場にもっと多くの人に積極的に参加してほしいと思いました。



# 「風輪通貨」で柏崎市内を食べ歩こう。

新潟産業大学では柏崎市の地元商店の活性化と地産地消の推進を目的とし、学生が作ったコシヒカリ「風輪米」による「米本位制」地域通貨「風輪通貨」を発行しています。通貨の単位は「風(ファン)」といいます。

市内各種のボランティア参加者には、1時間で風輪通貨100風札1枚が配布されます。100風は100円換算で、柏崎市内の協力店で使用できます。2018年3月現在、協力店は飲食店、日用品、日帰り入浴施設など29店舗。

また、新年度からは柏崎のゆるキャラ、えちごンをモチーフとしたデザインにリニューアル予定です。

vol.6に引き続き、今回は風輪通貨が使える飲食店3店舗をレポートします！

創業して約90年の洋食のフタバさん。昔はフタバ食堂という名前で二コニコ通りにお店を開いていたが、5年前に移転をして洋食のフタバと名前を変えた。店主の関さんは3代目としてお店を引き継いでから、「味をえないこと」にこだわりを持ち料理を提供しているそうです。

## 「味の決め手はしようゆ！」

先々代からの味を変えないことにやり食へに来てくださった多くのお客様が「昔から変わらない味だね」「昔運んでくださるとの事。その昔からの繋がり、歴史を大事にしていると関さんは言っていました。

昔からの常連客が絶えない料理の味の決め手はしようゆだそう。先々代が「しようゆは日本人を落ち着かせる」と、全ての料理にしようゆベースのソースをかけて落ち着いた味わいにしてが始まりだそうです。この落ち着いたのが始まりだそうです。この落ち着いた昔ながらの味がお客様に足を運んでください。

また、洋食のフタバさんは洋食店としては珍しく「出前」を行なっています。ですが、関さんは「洋食は出来たてが一番美味しい」とおっしゃっていました。昔ながらの洋食が食べられる洋食のフタバさんで出来たてを味わってみては？

## 洋食のフタバ



▲カツ、ハンバーグ、ポークソテーなどが一皿に盛り付けられている。ハンバーグとポークソテーはしょうゆダレで落ち着いた味わい。



### 洋食のフタバ

柏崎市西本町1-4-6  
Tel 0257-22-2894  
営業時間：11:00～15:00  
17:00～20:00  
定休日：月曜日  
祝日の場合火曜日



## 「柏崎産のそば粉で もちもちな生地に」

▲ハムと卵とチーズの最高のコラボ！

お店の名前「punto・ponte」の由来は点と点。つまり縁を繋ぐ場所でありたいという思いが込められており、市街だけではなく柏崎の人から愛され、地元の物を使い、見た目だけではなく味などで評価していたときたいという思いもあります。

お店で人気のコンプレットはハムと玉子、チーズの組み合わせで柏崎産のそば粉100%に鯛乃味噌や鯨泉サイダーを加えたもっちりとした生地で、とても食べごたえがありました。



## punto・ponte

柏崎市東本町1-15-5。  
柏崎ショッピングモール駐車場棟1F  
Tel 090-1034-2913  
営業時間：11:00～18:00  
定休日：月・火・水曜日



## 盛来軒

▼部活の後でも  
お腹いっぱいになりました！



▲平麺であっさりなのにボリューム満点！！  
チャーシューも柔らかい！



## 盛来軒

柏崎市駅前2-3-12  
Tel 0257-22-2181  
営業時間：11:00～20:00  
定休日：木曜日



## 「風輪通貨」で 柏崎市内を食べ歩こう。

新潟産業大学発  
米づくりから生まれた  
地域通貨



## 「創業100年。 培われた伝統の味。」

創業100年。

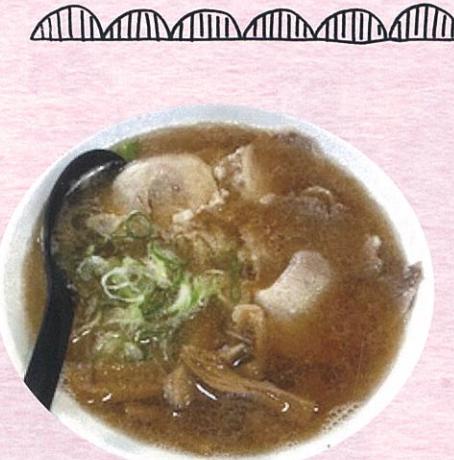
創業約100年の伝統をもつ「盛来軒」。このお店を作ったのは中国人の方だそうです。創業してから約100年もの間、幅広い年齢層のお客さんが足を運んでくれているとのことです。伝統を守るためにこだわっていることは、「創業以来から作り方を変えないこと」だそうです。

盛来軒オススメの料理中華そば。これも昔から作り方を変えていないのです。まずは麺。一から

作った自家製の平麺で出しています。次にスープは豚骨ベースの味のもの。こつてりではなくあつさりとした味わいが昔からの伝統だそうです。

お客様に喜んでもらえるよう、「やれる事を精一杯」とお客様に楽しめる場です。

約100年の歴史をもつ盛来軒さんは、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



## 盛来軒

柏崎市駅前2-3-12  
Tel 0257-22-2181  
営業時間：11:00～20:00  
定休日：木曜日

# 教職課程で「地域に学ぶ」

教職課程の履修学生たちは、学期ごとに地域巡査に出かけたり、地域の方を講師に招いたりして、積極的に「地域に学ぶ」機会を持っています。この冬に訪れた学外学習や外部講師による特別講義の様子をご紹介します。

## 西山教育振興会「西山の未来を考えよう」

昨年の12月11日、教職課程の1年生11名で、内郷小学校で行われた西山教育振興会の秋季研修会「西山の未来を考えよう」に参加しました。

初めて各学年の授業を見学させていただきました。1・2年生はまち探検の発表、3・4年生は山の環境維持について議論をし、5・6年生は熱心にメモを取りながら地域の方のお話を聞いていました。地域学習に非常に慣れています。地域の方々に加えて、西山町の問題は知りませんが、大きく子育て・観光資源・箱物活用の観点から、地域の方々から話を聞くことや、綺麗な山の自然を活かして観光に力を入れることなど、それぞれが自分の考えを提案しました。最初は遠慮がちだった話し合いも、最後には活発な話し合いが展開されました。



## 2年次「プログラミング学習」講習会

1月23日、2年次科目「教育方法論」の授業の一環で、小学校の学習指導要領で新たに導入される「プログラミング学習」について学びました。

講師は柏崎市内の情報サービス企業「カシックス」の齋木太郎さん。

実際に市内の小学生に向けて授業をされたことがある、「分数電卓をつくろう!」という課題を通じて、プログラミングを体験しました。



▲小学生向けの課題と言ってもあなどれません。みんな真剣な表情。

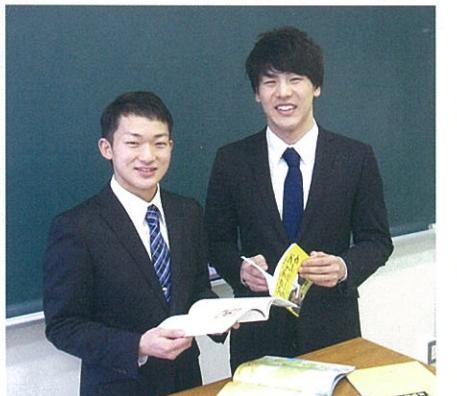
てもできる「プログラミング思考」に繋がります。

小学生向けの課題とはいって、少々不安な学生も!? ということで、事前に分数の計算ドリルを復習。勿論答えは出せますが、どういうルールで、どんな手続きをするから答えが出せるのかを確認しました。それこそが、必ずしもパソコンを使わなくログラミングを体験しました。

▲講師の齋木さん。最先端の学びを分かりやすく紹介してくださいました。

産大では中学高校の免許しか取得できませんが、こうした内容を小学校で学んできた子どもたちが今後中学生になると思うと、決して他人事ではありません。今、教育内容は目まぐるしい社会の変化に対応して、大きく転換していく重要な体验ができました。

上越教育大学大学院に進学！先輩たちの教職課程の思い出



渡辺 雄大さん

(文化経済学科4年 H30年3月卒業)

大口 博史さん  
(経済経営学科4年 H30年3月卒業)

教職課程は必然的に履修科目数が多くなってしまいますが、仲間たちと楽しく盛り上がり、日々の授業を乗り越えることができました。講義では教師としての基礎を学ぶことで自らの見聞が広がり、自分の人生でも貴重な時間でした。特に地域巡査

1月24日、大雪の日でしたが、毎年、教職1年次の恒例行事といふ、柏崎刈羽原子力発電所の見学に訪れました。まず、施設の中では原発の敷地や原子炉の構造をわかりやすくした模型を使って説明をいたしました。ここで災害時に備え、構内には25台の電源車と42台の消防車があることを聞き、その数の多さに驚きました。また、燃料棒がとても多くのプルトニウムなどの集合体であり、原子炉の中にはその燃料棒が数

多く入っているという原子力発電の構造も、初めて知ることができました。その後、建屋内の見学もさせていただき、その時に一番印象に残つたのは「想定外と言わなくてよいようだ」という点です。今回見学したことで、福島での事故では、もしもの時の備えさえ機能しなかったことを教訓に、より多くの手段を用意し、あらゆる場合に備える試みがとられていました。それがと同時に、その対策があまり世間に知られていないということにも気づきました。



▲ガラスの向こうには現在停止中の原子炉がありました。



文：齊藤千絵（「西山の未来を考える」・柏崎刈羽原子力発電所）

実習中は毎日家に帰つてから深夜の3時ぐらいまで慣れないプリント作業や指導案作成に追われ、寝不足でいました。また、個別指導して下さいました。また、実習中は毎日家に帰つてから深夜の3時ぐらいまで慣れないプリント作業や指導案作成に追われ、寝不足で

この4月からは、上越教育大学教育職大学院教育高度化専攻教育臨床コースに進学します。私はこのコースで小学校の教育職員免許状を取得し小学校教諭を目指しながら、研究では実際に現場で児童生徒の行動理論や「学び合い」について学んでいきます。楽しみも不安も半々ですが、2、3年後に自分が小学校で筆をふるう姿を目指して尽力していきたいと思います！